



あびスポッチャー

安平町のスポーツ×カルチャー



町では、国の方針に基づき、部活動を学校から地域に展開することで、子どもから大人までがスポーツや文化を楽しめる環境づくりに取り組んでおり、令和7年度で部活動の地域展開は完了しました。

今回はアビースポーツクラブに所属している団体をご紹介します。

■ 安平ベースボールクラブ

「私が小学生の頃、夢中になって野球をしていたこのグラウンドで、今は地域の子どもたちに野球を教えられることに幸せを感じています。」と話すのは、クラブを率いて3年目を迎える畠山監督。

かつて中学校の野球部が存続の危機に瀕した際、地元の「早来メッツ野球少年団」の監督だった畠山さんが、中学生の指導を引き受けたのがチームの始まりで、現在のクラブメンバーは中学1年生から3年生までの18名。クラブを立ち上げてからの2年間は、思うような結果が出ず、悔しい思いも重ねてきましたが、3年目は「自分で考えて行動できるようにならないとなかなか結果がついてこない。指示待ちではなく自分自身で行動できるようになってほしい」と、選手一人ひとりが、試合の振り返りをノートに付けるという習慣をスタート。また、移動時間などに監督と対話をする時間を大切にしているとのこと。その結果、新チームになってから東胆振地区の全ての大会で優勝。子どもたちには「毎日こうやって練習出来ていることが当たり前じゃなく、いろいろな人の力があってこそなので、感謝する気持ちを大切にしてほしい」と語る畠山監督。そして、監督自身が地域で指導してくれた人たちの後を引き継いでいることもあり「指導した選手の中から、いつかここに帰り指導者となる人が現れたら」と語っていました。



■ 主将 早来学園9年生 鈴木 志（たいし）さん

「先輩たちの楽しそうな姿を見て、中学に入って自分も心から元気に野球を楽しめるようになりました」と笑顔で話すのは、主将の鈴木 志さん。主将になってからは、周囲の動きをよく見ながら、率先して声をかけることを意識しているとのこと。

「これからもチーム一丸となって、楽しんでしっかり勝てる野球をしたい」と、8月に行われた全道大会に向けての意気込みを教えてくれた鈴木さん。

少年団に興味を持ってくれた方には「野球の経験がなく中学から始めている人もいます。一緒に野球をやりたいなと思っているので、体験だけでもぜひ来てください」と話してくれました。一歩ずつ課題を乗り越えてきたチームは、少年団から長く続く伝統を大切にしながら、新しい挑戦を取り入れ、活動に励んでいます。



「安平ベースボールクラブ」
Instagramアカウント

このような取り組みを通じて、スポーツ・文化活動を推進しています。持続可能なスポーツ・文化環境をつくるため、日々挑戦を続けていますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願いします。

詳しくは
こちらへ



公式HP



公式LINE

問合せ：安平町教育委員会事務局 社会教育グループ
☎ 29 7036

受託者：NPO法人アビースポーツクラブ